

今月の連載関連本

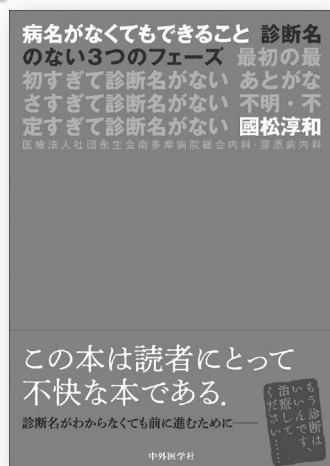


思春期、内科外来に迷い込む

國松淳和、尾久守侑＝著

定価 3,080 円／四六判・254 頁／中外医学社／2022

國松淳和先生と尾久守侑先生が、内科外来にやってくる思春期の子どもたちについて語り尽くした。診療科の狭間に落ちやすい思春期の体調不良を救うのは誰か？ そこに内科外来の重要性を見出し、全医療者の新たな可能性をひらく。“クロスしないトーク”の話題は思春期診療だけにとどまらず、内科と総合診療、“なんとなく”という感覚、自己愛、チーム医療などにも及び、2人の臨床風景がありありと浮かぶよう。さらに註釈の重ね塗りによって、立ち止まることのない思考の進歩も垣間見られる。



病名がなくてもできること

診断名のない3つのフェーズ

最初の最初／最初の最初／最初の最初
最初の最初／最初の最初／最初の最初
最初の最初／最初の最初／最初の最初

國松 淳和＝著

定価 3,960 円／A5 判・244 頁／中外医学社／2019

臨床において「まだ何もわかっていない」時点でどう考えていくのか？ 診断名がない局面を「最初の最初」「あとがない」「不明・不定」の3つのフェーズに分け、著者が実際に行っている思考の一端についての脳内共有を目指した。読者が本書の内容を不快と感じるか、はたまた興奮を感じるか、予想はまったくつかない。しかし、未知の刺激により明日からの臨床に対する思考が変わること間違いないの革新的書籍である。